

ばばたけ 広島サンダース

久原 大輝

8月中旬、高木啓士郎選手と金子聖輝選手が広島大病院(広島市南区)の小児病棟を訪問した。子どもたちとソフトバレーボールを使い、パスをしながら楽しい時間を過ごした。

最初は思うようにボールを返せなかった子どもたちも、何度もボールに触れるうちに少しずつコツをつかみ、驚くほど上達していった。その姿を見ながら、あらためて吸収力のすごさを感じた。新しいことに挑戦し、すぐに自分のものにしていく姿は私たちも見習いたい。

訪問時間は約1時間半と短かった。終始笑い声が絶えず、選手にとっても幸せな時間となった。高木選手と金子選手の優しさも、子どもたちにしつかり伝わったのではないかな



子どもの挑戦 選手の力に

と思う。
そして、何よりも子どもたちからたくさん元気をもらった。短い時間ではあったが、一緒にボールを追いかけて、笑い合った時間は選手たちにとっても大切な思い出になったはずだ。
次に会う時は、コートの上でサンダースの強さを届けたい。そんな思いを胸に、私たちも日々の活動に取り組んでいく。
(広島Tマネジャー)



広島大病院を訪問した高木(左)、金子の両選手(20日)